

§2-4.

第2章のまとめ

- * 色黒肌には男性判断を、色白肌には女性判断を促進する作用がある。但し、肌色を伴わない状態で性別判断が極めて安定している形態では当該の作用が及ばず、形態的曖昧性が肌色の作用の要件となる。
- * 男女どちらかのパタンが成分として 3/4 (75%) 含まれていれば性別の判断は安定する。また、女性パタン合成率が 30~60% の間で性別判断が切り替わり、殆どの場合はこの領域内に男女の中間点が表象されていると考えられる。
- * 男女の顔パタンが拮抗した顔形態の場合、男性はその対象を男性として判断し易く、女性は女性として判断し易い。
- * 丸みを帯びている、角張っているといった印象が明確に意識される場合には性別の判断が一致し、その方向性が定まらない形態については判断にばらつきが生じ易い。逆に、判断が一致する顔形態は丸みという尺度において明確な方向性を持ち、判断がばらつく形態については丸みの印象が明瞭でない。
- * 肌色に対するジェンダーステレオタイプは明確に存在する。実際の自己認識の上でも男性は色黒、女性は色白であり、志向する肌の色においてもその方向性は保たれる。